

# 一寸光陰不可軽

## 人国記

初めてクルマに興味を持ったのは、5歳くらいのころ。家の近くを走っていたマツダやダイハツ、くるがねなどの「3輪トラック」でした。バイクと同じバーハンドルで小回りがよく、いたので、道路の狭い田舎では大活躍だったんです。ただ、スピードは子供の足でも追いつけるくらいで、走行中の荷台のおおりにつかまる、という危ない遊びも楽しい思い出です。

自分の家や近所にクルマなどない時代、もっぱら自動車に乗るチャンスは、父の仕事の手伝いで使う路線バスでした。父が修理した時計を発注元の大きな時計店に届けるのに乗っていったんです。

座る場所は「運転席のすぐ後ろ」と決めていました。そしていつも、計器類をなめるように見回し、運転手をじっとみながら自分が運転している姿を

### 元マツダロードスター主査

想像していません。「運転手さんはなぜクラッチを2回操作するんだろう」などと、徐々にメカニズムに興味を抱いていきました。

そのうち、新聞に載っている自動車の記事や広告を見るのが楽しくなってきました。「今度の新型は、こんなサスペンションを搭載している」なんていう記述を読んで胸を躍らせ、いつの間にかたいの自動車の名前やメーカーはもちろん、そのクルマがどんなマイナーチェンジを受けたか、ということも覚えてしまいましたね。

両親や兄弟と一緒に写真に収まる小学3年のころの貴島さん(手前左)

# 車に興味覚えた幼年期

バス以外で初めて乗った自動車は、偶然にもマツダ車。軽自動車のR36



0クーペでした。父の知人に乗せてもらったんですが、砂利道でも乗り心地がよく、生意気にも「マツダは技術もいいし、スタイルもいい」と「評価」していたんですよ。

そのころ、テレビで「ハイウェイパトロール」という海外ドラマの放送がありました。もちろん、わが家にテレビなどなく、近くの親類宅に見に行っていたんですが、ストーリーもさることながら、登場する車の「挙動」がかっこいい。ブレーキを踏むとフワッと止まる、急発進すると後部がザザーッと流れる…。のちに仕事でカリフォルニアを訪れ、少し田舎にさしかかったとき、「ハイウェイパトロールの景色だ！」と思いました。

クルマ以外では、自宅近くの山に登って遊ぶのが大好きな腕白少年でした。昆虫を捕まえたり、木や竹を材料にナイフでいろいろなものを作ったり…。「ものを作る」ことで感じる楽しさはそのころから、大人になって厳しい職場の中に身を置いても、変わることはありませんでした。



九州・山口

産経新聞九州山口版は月々購読料3000円の朝刊紙です。九州山口地域でもご自宅や会社に配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092(741)7088  
FAX 092(726)2572  
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004  
福岡市中央区渡辺通  
5-23-8  
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333  
FAX 083(923)3334  
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074  
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは  
☎ 0120(34)3733  
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは  
TEL 092(741)2323

広告のご用は  
TEL 06(6633)9474